

4月号

School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



Dream通信

2012. 4. No. 49

親子の絆

～お父さん、お母さんみたいになりたい！～



里親様と帰園したヴィチェット



里親様と初めてのお昼ごはん



大きくなったなー！

皆さんこんにちは。乾季真っ只中のカンボジアでは毎日痛いほどの日差しで、子どもたちも毎日暑い暑いと言い、日に3度も4度も水浴びをしています。そして今後はマンゴーやジャックフルーツがどんどん甘く熟していく季節で、青空の下、園のたくさんのフルーツが実っていくのを子どもたちは楽しみに見つめています。

さて、今回のDream通信では、支援者様の視察ツアー(春季)での、お客様の孤児院ご来園の様子、岸和田盈進会病院の皆様の子どもたち診察の様子、そして先月号でお知らせしたグループ分け農作業の進捗についてお伝えします。

春季SAJツアー

2012年3月5日から8日、支援者様の視察ツアー(春季)が開催されました。6日からの3日間、子どもたちの里親様を含め、大勢のお客様が来園されました。里子たちは皆大喜びで、久しぶりの再会に終始笑顔が止まりません。今回初めての対面となったテーン・ヴィチェットは、学校へ様子を見に来た里親様と、学校帰りに一緒に自転車をこいで満面の笑みで園に帰ってきました。偶然にもヴィチェットは園でいつも修理関係の仕事を担当されており、将来の夢はエンジニア、里親様も電気技師ということで、仕事の話がたくさん聞き、自分の将来の夢と重ね合わせました。『もっと勉強を頑張って将来お父さんの会社で働きたい！』と言い、英語と日本語をもっと勉強すると約束してくれました。

また、ダエット・パンヤー、タン・ヴィサールも今回が里親様との初対面となり、緊張した面持ちでしたが、2人とも通訳を介して里親様と楽しく会話をし、食事を共にしました。そして有り余る元気で子どもたちはお客様と思いっきり遊び、限られた時間の中で楽しい思い出を作りました。

今回のヴィチェットのように、大きくなってきた子どもたちは、里親様やお客様から職業の話聞き、大変興味を持っています。農業が主であるこの村には、聞いたこと無い職業ばかりです。子どもたちは自分なりに想像し、将来も里親様と一緒にいたい、また日本で活躍したい、お客様のように成功した人になりたい、そう夢見る子どもが増え、将来を考える大きなチャンスとなっています。



生まれて初めての診察！



早朝の肩こり予防体操



大きく育ったとうもろこしの苗



初めての調理に悪戦苦闘

盈進会病院診察

2012年3月3日と4日の2日間、渡邊代表理事が理事を務める大阪府にある岸和田盈進会病院のお医者様が、子どもたちの診察に来て下さいました。子どもたち全員(計77人)を順番に、どこか悪いところが無いか診てもらいました。カンボジアの病院で診てもらっても心配な子や、もともと体の弱い子、お腹の痛い子、頭の痛い子など様々な症状の子どもたちの話を聞き、診察して下さいました。ほとんどの子どもたちは問題なく、心配するほどではないということで、職員一同とても安心しました。

また、一つ大きな驚きがあったのが、頭痛を訴える子どもたちのほとんどが、子どもには肩こりがひどいとのことでした。その理由は子どもたちの勉強の姿勢にありました。授業中、ほとんどの子どもが机に突っ伏してノートを書いているのです。猫背に背中を丸め、立っている時でも姿勢の悪い子どもがたくさんいることがわかりました。そこでお医者様から首や肩の凝りをほぐす体操を教えてもらい、毎朝国旗掲揚の時間に全員で行うことを約束しました。こうして年に1度でも日本の医師の先生方に診てもらうことで、子どもたちに健康への指導をしてもらい、今後も子どもたち全員が元気で暮らしていけるように精一杯サポートしていきたいと思えます。

グループ農作業進捗状況

先月号でお知らせしました、園の裏農場で始めた子どもたちのグループ農作業の進捗をお伝えします。子どもたちが土を起こし、畝を作り、種を植えてから約1ヶ月。乾季にもかかわらず、みるみる野菜は大きく育っています。特に大きく成長して子どもたちを喜ばせているのが、とうもろこしです。もう腰ほどの高さに育ち、小さい子どもたちの背丈を抜いてしまいそうです。これから甘い実がなり、食べられるのを皆が楽しみにしています。

今月になって3つのグループが初めての収穫に取り掛かりました。植えた野菜はとうもろこし、インゲン、空芯菜、きゅうりでしたが、最も早く成長した空芯菜を刈り取り、3チームで10kg以上の空芯菜が収穫できました。子どもたちはいつも調理の手伝いはしていますが、自分で考えて自分で調理するのは初めてです。料理はカンボジアでは一般的な空芯菜炒めに決定。調味料を入れる順番が分からなく、保母さんに聞きながら、なんとか見た目もおいしそうな空芯菜炒めが完成しました。子どもたちは納得のいくできばえに喜び、おいしく頬張っていました。今回は10グループのうち3グループのみが収穫できましたが、皆他の収穫できなかったチームにも料理を配り、皆と一緒に食べました。今後も子どもたちが自主的に農作業を続けていくこと、そしてその結果を経て次に何をするかまた自分で計画を立てていく、そうして農業の楽しさを理解できるようになって欲しいと思います。